

緑化だより

No.158 令和2年3月号



ホトケノザ

- 季節の花(モモ)
- 昆虫の話(みんなで越冬・ナミテントウ)
- 小さな世界こけ
(コケが観察できる場所(4))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内

ryokka 緑化センター

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

モモ

「春の苑(その)くれなゐにほふ 桃の花 下照(したて)る道に 出で立つをとめ」

大伴家持 万葉集 巻19:4139

これを訳しますと

(春の庭園の紅色に美しく咲いている桃の花の樹の下まで、

明るく照り映えている道に出てたたずむ乙女よ)

この歌は、天平勝宝2年(750年)陰暦3月1日の暮れに詠われました。

家持が越中(富山県)の国守として赴任していたころ、雪国の春の訪れに、桃の花と少女との取り合わせの絵画的な美しさを詠んだものです。

モモはバラ科サクラ属の落葉小高木です。3~4月、薄桃色の花が咲き、7~8月に実をつけます。原産地は中国で、かなり古い時代に日本に渡来してきました。日本に自生していたという説もあります。奈良時代には果実は甘くなく薬用、観賞用として利用されました。江戸時代以降は甘味の強い、水蜜桃系が輸入され改良し果実として栽培されています。モモの改良品種で、美しい花を観賞するハナモモは、緑化センターでも見られます。



モモ

桃は食用のほか、邪気を祓う力があると言われ古くから祭祀(さいし)に用いられました。

西暦200年の頃、女王卑弥呼が治めた邪馬台国の候補地の一つ「奈良県桜井市の纏向(まきむき)遺跡」の宮殿から桃の種が2000個以上発見されています。祭祀のために供えられたものと考えられています。

広島大学名誉教授、関太郎先生が中学生の頃に、松山市道後の弥生時代の遺跡からモモの種を発見し、新聞にも掲載され話題になったそうです。その資料は現在、松山市埋蔵文化財センターに保管されています。

おとぎ話の、桃から生まれた「桃太郎」は鬼や悪霊を退散させました。また平安時代から続いている伝統行事、3月3日の桃の節句(ひな祭り)は、雛人形を飾り、桃の花を供えて女兒の健やかな成長を祈り、お祝いする行事です。

中国では桃は邪気をはらい、不老長寿を与える植物とされています。中国料理の点心の桃饅頭(もまんじゅう)は、あんこの入った桃の色とかたちの蒸し饅頭で、お祝いの席に用いられます。(上村)

昆虫の話

みんなで越冬・ナミテントウ

3月の天気の良い日、屋外に積まれた木材やブロックの上を、色とりどりのテントウムシが歩いている様子を観察することがあります。山の中の場合、その多くはナミテントウです。冬の間は眠っていたものが、暖かくなったので外へ出てきたのです。

ナミテントウはその名の通り、最も普通に見られるテントウムシで、主に樹木につくアブラムシを食べて生活しています。樹木の多い緑化センターや森林公園の周りでは、最も多く見られるテントウムシです。色彩は黒に橙色の模様が二つ並んだものが多いですが、橙色の模様が4つだったり、斑になっていたり、橙色に黒い斑が入ったりと多様です。西日本へ行くほど黒に橙色の模様が二つ並んだものが多くなると言われています。春から秋にかけて、アブラムシがたくさんついた木の枝でよく見られます。暖かい時期、ナミテントウはあちこちに散らばって生活していますが、寒くなると一か所へ集まってきます。集まる場所は毎年決まっていて、見晴らしの良い場所の電柱や、よく日の当たる場所の岩や建物で多く見られます。



越冬中のナミテントウムシ

集合したナミテントウは周辺の岩や樹皮の隙間、積まれた木材やブロックの下等、雨風の当たらない乾いた場所へ潜り込み、冬を越します。しばしば、物置の片隅などに集まっていて、大掃除の時に仰天することがあります。

春、新緑が芽吹くころ、冬眠から目覚めたナミテントウたちは、又あちこちへ散らばっていきます。同じころ、アブラムシが発生しますが、それを食べてくれるのが彼らです。もし山で見かけたら、ぜひ観察してみてください。(市森林公園こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(4)

入口から約 1.2 km、城前橋を渡ったカーブののり面を観察しましょう。

いくつかある中から今回はフタバネゼニゴケとクジャクゴケを紹介します。

フタバネゼニゴケは、雌雄異株のタイ類で、水が滲み出る地面や岩壁などに見られます。ジャゴケやゼニゴケと同じく葉状体ですが、幅は 5~7 mmくらいとやや小さめで、葉の先は丸いポケット状に浅く切れ込んでいます。春先、王冠のような無性芽器の中に、円盤形の無性芽が見られます。雄株は傘を広げたような茶色の雄器托をつけます。雌株の雌器托は、受精すると傘状になりますが、未受精の場合はウサギの耳のように2枚だけが大きい雌器托になります。これを2枚の羽根に見立てたのが名前の由来です。



フタバネゼニゴケ

少し上に目をやるとクジャクゴケが見られます。

セン類のクジャクゴケは、湿り気がある薄暗い岩や腐植土に生えています。地面を這う一次茎から二次茎が立ち上がり、頂部の枝は手を開いたように広がっています。それをクジャクが羽根を広げた姿に見立てたのが名前の由来で、その名前のおり美しいコケです。

春さきに、1株に数本胞子体をつけ、2~3 cmの長さ



クジャクゴケ

の柄の先に、細長い卵形の蒨をつけます。(山根)

研修会のご案内

- | | |
|--|--|
| ○ 3月 6日(金)『果樹の手入れ(春)』
春の手入れを学ぼう
※ 自由参加、無料、 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：元県立農業技術センター果樹研究部
三原分室室長 石井 實 |
| ○ 3月 11日(水)『コケの観察会』

※ 自由参加、無料、ルーペ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授
関 太郎 |
| ○ 3月 17日(火)『3月の自然探勝』
春の息吹を感じよう
※ 自由参加、無料、
夫 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：広島県文化財保護審議会委員
(植物生態学) 吉野 由紀 |
| ○ 3月 21日(土)『早春のバードウォッチング』

※自由参加、無料、双眼鏡持参 | 10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：野鳥愛好家
吉見 良一 |
| ○ 3月 30日(月)『早春の写真教室』
早春の写真を撮ろう
※ 要予約(先着20名)、無料、カメラ持参 | 10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員
宗岡 泰昭 |

☆お知らせ・ご案内☆

・春のおでかけキャンペーン 3月14日(土)～5月24日(日)
緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット!

・さくら祭り 3月20日(金・祝)～4月19日(日)
さくらクイズに答えて景品ゲット
期間中、早咲から遅咲きの桜約50種類が楽しめます。

・さくら祭りお楽しみイベント (レストハウス前広場ほか)
4月5日(日) 10:00～15:00
さくらクイズラリー、木工クラフト、ネイチャーゲーム
丸太切り、紙ヒコーキ飛ばし、森のカフェテラス、
お茶席、草花販売など



さくら祭り

◎ 展示会

場所:

学習展示館

・緑化センターの桜写真展 3月14日(土)～4月19日(日)

レストハウス

(ガラスケース展示)

・折り紙作品展 4月11日(土)～4月30日(木)

～ 森林公園 イベント情報 ～

3月29日(日) 10:00～13:00

森のどん汁

場所：(中央広場) 先着100人

当イベントは、森林公園の自然を満喫するためのイベントです。